

7/13-19#5主と協力して彼のエコノミーを遂行し、彼の忠信な執事となって、主からの負担を持って言葉を供給し互いに一つ思いで組み合わせられる。I. 神の永遠のエコノミーは、神のご計画であり、彼の家庭のエコノミー、彼の家庭の行政です。神の分与、神の分配は、神が彼のエコノミーを完成するための過程また手段です。こういうわけで、神の分与は神のエコノミーのためであるのです。1テモテ1:3 ある人たちが異なる事を教えたり、4 作り話や果てしのない系図に、心をとめたりすることがないように命じなさい。そのようなものは、信仰の中にある神のエコノミーではなく、むしろ論議を引き起こすだけです。エペソ3:11 神が私たちの主キリスト・イエスの中で立てられた、永遠の定められた御旨にしたがっているものです。Aキリストは、神のエコノミーの中心、円周、要素、領域、手段、目標、目的です。事実、神の永遠のエコノミーの内容はすべて、ただキリストです。B私たちが神のエコノミーを認識していないなら、聖書を理解することはできません。聖書の中心的な主題は神のエコノミーであり、聖書全体は神のエコノミーに関するものです。C神のエコノミーは、ご自身を私たちの存在の中へと分与して、私たちの存在が彼の存在をもって構成されることです。この事は、神がご自身を神聖な命として私たちの中へと分与することによってのみ完成されることができます。II. 神は彼のエコノミーを遂行するために、神聖な命の供給を神の子供たちに分与する忠信な執事、分与者を持たなければなりません。A「執事」というギリシャ語は、1テモテ1:4とエペソ1:10の「エコノミー」という言葉と同じ語根から成っています。B私たちはみな神のエコノミーの良い忠信な執事でなければなりません。すなわち、キリストを享受し、キリストを供給して、キリストを神のさまざまな恵みとして分与して、神の家族としての聖徒たちに供給する者でなければなりません。エペソ3:2 あなたがたのために、私に与えられた神の恵みの執事職について、あなたがたは確かに聞いていることでしょう。コロサイ1:25 私は、神の執事職にしたがって、その奉仕者になりました。それは、あなたがたのために私に与えられたものであり...C日ごとに、驚くべき伝達が起こっているはずで、神は、恵みの霊を満ちあふれるほどに供給しています。私たちは、絶えず恵みの霊を受けて分与しているべきです。Dクリスチャン生活は、恵みの生活、恵みの経験であり、私たちが恵みの執事職を遂行し、恵みを分与することができるようにします。E私たちは恵みの霊の満ちあふれる供給の経路となる必要があります。すなわち、神の恵みの言葉を聖徒たちに供給し、分与して、彼らが命において成長し、キリストを享受するよう

にする必要があります。III. 私たちは、主からの負担を持って言葉を供給しなければなりません。A神に開いた霊は、神から負担を受ける条件です。私たちは主との親密な交わりの中で、祈ることを通して負担を受け、負担を解き放つことを学ばなければなりません。1祈りと働きは、分離することはできません。祈りがなければ、働きはありません。2神は、私たちに祈りの負担を与えるなら、それが発表されることを願っています。負担は発表を通してのみ下ります。3もし家で声に出して祈ることができないなら、主が行なったように、私たちの負担を発表することができる場所を見つけましょう。私たちは、小さい声で祈ったとしても、聞こえるように祈るべきです。神は、私たちの負担が言い表されることを願っています。B預言者が受けた啓示は、彼らが受けた負担でした。負担がなければ、言葉の務めはなく、預言はなく、召会を建造することもあります。イザヤ13:1 アモツの子イザヤが見た、バビロンについての託宣。ゼカリヤ12:1 イスラエルについてのエホバの言葉の託宣。天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる。1私たちの負担は神の啓示を人に解き放つことであり、神の啓示は、神が私たちに与える啓示の言葉を通して解き放たれます。2私たちが神の言葉を供給するとき、私たちの関心事は、私たちに神の語りかけがあるかどうかであって、私たちの語る題目であってはなりません。神の語りかけを得るために、言葉の務めをする人は負担を持たなければなりません。3言葉の務めをする人は、人の状態を神の御前にもたらし、彼らの状態を感じ取り、神が語りたいことを知らなければなりません。C召会を治めることでの、また言葉の務めすることでの最大の問題は、主からの負担を持たないことです。1負担がなければ、私たちのすべての活動は、死んで効果のないものとなります。負担があれば、私たちは生きて繁栄します。2負担を持つことは、私たちを最も多く対処します。負担があるなら、自己は減少し、対処されます。なぜならある事は、私たちの負担が私たちに行なわせないようにし、ある事は、私たちが対処されることを要求し、そうでないと自分の負担を解き放つことができないようにするからです。3私たちが義務感で奉仕し、負担をもって奉仕するのでないなら、そのような奉仕は、私たちに主の臨在を失わせます。4私たちの奉仕が義務を果たす事柄になるときはいつも、私たちの奉仕はすでに墮落しています。IV. 私たちは、互いに一つ思いで組み合わせられなければなりません。Aからだを見て、いることの最大のしるしは、私たちが単独になることはできないということです。パウロが1コリント1:1でソス

テネを述べていることは、彼にからだの感覚と組み合わせの霊があったことを見せています。**1コリント1:1** 神のみこころを通して召されたキリスト・イエスの使徒パウロと、兄弟ソステネから。**B**他の人がからだの中の組み合わせのために、私たちが他の人を必要とし、他の人が私たちを必要とするという感覚を、私たちが持たないゆえに、私たちの間で、学ぶ人の霊、助けを必要とする霊を持っている人はごくわずかです：**マタイ5:3** 霊の中で貧しい人たちは幸いである。天の王国は彼らのものだからである。**1**組み合わせは、互いがいなければ何もできないということを意味します。**2**互いを必要としない、また交わりを必要としないと感じるのは、最もひどい高ぶりです。それは主にとっても、からだにとっても、最も罪を得ることです。**3**もし他の人との組み合わせに欠けるなら、私たちは常に、彼らが行なうことを批判するでしょう。**C**神の祝福は、私たちの一つ思い、また霊の中で互いに調和一致していること、真の組み合わせを持っていること、真の一を持っていることに基づいています。**1**私たちは言葉の務めをし、交わり、祈るとき、人を批判すべきではありません。特に、人と祈るとき、相反する方法で祈ることを避けるべきです。**2**私たちは絶対に、言葉の務めの中で人を批判することを避けるべきです。人を批判することは、私たちが狭いことを示しており、これは分裂に導きます。**3**私たちが常に持つ必要のある態度は、人を尊重し、人と協力し、組み合わせられるという態度です。私たちは自分の分にしたがって人に仕え、人の分を尊重すべきです。なぜなら、両者の分は、主が私たちに託しているものであるからです。すべての人はへりくだって、自分の分を他の人の分より高く考えないようにすべきです。**ピリピ2:3** 何事も、自分本位の野心から、また虚栄からするのではなく、むしろ謙虚な思いで、互いに他の人を自分自身よりすぐれていると思いなさい。**4**おのおの自分自身の長所だけでなく、他の人たちの長所にも目をとめなさい。**4**兄弟たちは砕かれ、他の人に適応し、他の人の機能を尊重する学課を学ぶ必要があります。こうしてはじめて、私たちはからだの感覚を守り、私たちの間で建造を生み出すことができます。**5**私たちはみな一つ魂になって、メッセージを語っているすべての人のために祈り、彼らに供給し、彼らを支えるべきです。もし主に仕える人たちが絶えず不調和であって、一つ思いの中にないなら、敵、聖徒たち、子供たちでさえそれを知るでしょう。**6**私たちの語りかけが他の人より高いという印象を、聖徒たちに与えてはなりません。むしろ、聖徒たちは、私たちの語りかけが、他の人の語りかけと調和しているという印象を持つべきです。**7**ある兄弟が語ると

き、ある人は批判的になり、心の中で、「私はこれをすでに知っている」と言うかもしれません。このような霊は、神の働きを破壊するものです。**8**忠信な聖徒たちが私たちを観察しているので、私たちは注意して、私たちと主の回復に対する憂慮をかき立てることを、何も行なったり、何も言ったりしてはなりません。**9**高ぶりは破壊を招きますが、へりくだりは祝福をもたらします。**10**奉仕する者たちの間で建造に欠けるのは、互いに愛に欠けているからです。**a**私たちに對する主の言葉と、私たちのための主の祈りは、互いに愛し合うことでした。**b**奉仕する者たちの間には、特別な愛があるべきです。そのような互いに対する愛は、私たちと主との一から来ます。**c**長老と同労者は、互いを牧養し合い、互いに愛し合って、からだの生活の模範となるべきです。**D**私たちは霊を活用し解放して、一つ思いで祈ることによって、共にブレンディングされる必要があります：**マタイ18:19** ...あなたがたのうちの二人が求めるどんな事でも、地上で調和一致するなら、天におられる私の父によって成就される。**使徒1:14** これらの人はみな、...一つ思いでひたすら祈り続けていた。**1**私たちは団体として祈るべきであって、個人主義的に祈るべきではありません。**2**一方で、私たちは、続いて祈る人が、私たちの祈りを継続することができるように祈るべきです。もう一方で、私たちはまた他の人の祈りに聞き入り、彼らの祈りの中に入って、彼らの祈りに続くべきです。**3**私たちは主に対する懇願と嘆願の短い祈りをすべきであり、主に説明することに満ちた、主に描写や指示を与えることに満ちた、長い祈りをしてはなりません。**4**長い祈りは常に祈りの集会を殺します。それは、あなたが自分と自分の感覚だけを顧みて、他の人や、集会における雰囲気とその霊の流れを顧みていないことを示します。**V. 召会の中で互いに組み合わせられて奉仕することは、召会の墮落に打ち勝つことであり、それは神の七倍に強化された霊によって、キリストを命の木、隠されたマナ、宴席として食べることを通して、神の永遠のエコノミーを完成させることです。****A**召会の中で互いに組み合わせられて奉仕することは、キリストを義、平和、聖霊の中の喜びとして享受することです。「このようにキリストに仕える者は、神に喜ばれ、人にも良しと認められます」。**B**召会の中で互いに組み合わせられて奉仕することは、神にしたがって人を牧養することです。**C**召会の中で互いに組み合わせられて奉仕することは、快く与える者となることです。**D**召会の中で互いに組み合わせられて奉仕することは、預言の生活をして、流れる三一の神をあふれ流すことによって召会を建造し、神の豊満としての召会を構成することです。